

H28年漁期の底びき網漁業の漁模様

今回は、平成28年漁期（平成28年9月～平成29年6月）の本県沖の底びき網漁業（沖底・小底）の漁模様について報告します。漁獲量の集計は水産試験場漁獲情報システムで行い、県内水揚げ分について集計しました（銚子水揚げ分は含まれません）。

1. H28年漁期の県内水揚げは、約2,600トン、9.8億円

平成28年漁期の水揚げ量は約2,600トン、金額は9.8億円となり、前年とほぼ同じ程度となりました（図1）。震災以前は約2,000トン、約7～8億円前後で推移していましたが、震災後は約2,500トン超、9億円以上の水準にあり、H28年漁期もその水準が続いています。

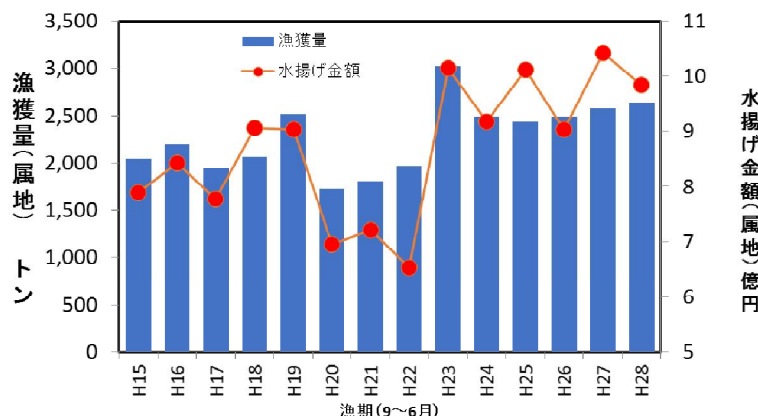


図1 近年の底びき網（沖底・小底）漁獲動向（属地）

2. 漁獲量の多い魚種

平成28年漁期に漁獲量が多かった上位5魚種は、順に1位メヒカリ513トン（前年151トン、4位）、2位ヤリイカ406トン（同361トン、2位）、3位アナゴ248トン（同305トン、3位）、4位ヒラメ245トン（同439トン、1位）、5位ヤナギダコ129トン（水ダコ、同145トン、5位）でした（図2）。昨年と比べるとメヒカリが3.4倍の大幅増、ヤリイカは1.3倍増、一方ヒラメは約半分に減少しました。金額で見ると上位5魚種は、ヤリイカ、ヒラメ、メヒカリ、アナゴ、ヤナギムシガレイの順となりました。

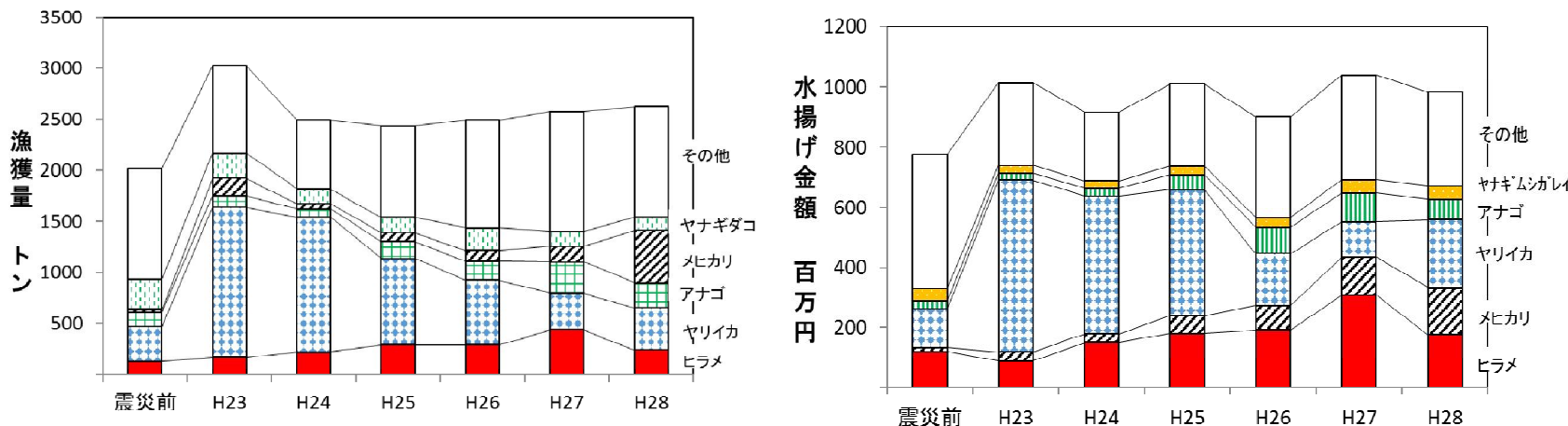


図2 水揚げの多い魚種の漁獲量と金額（震災前はH18～22年の平均）

3. H28年漁期主要魚種別漁獲量の震災前との比較

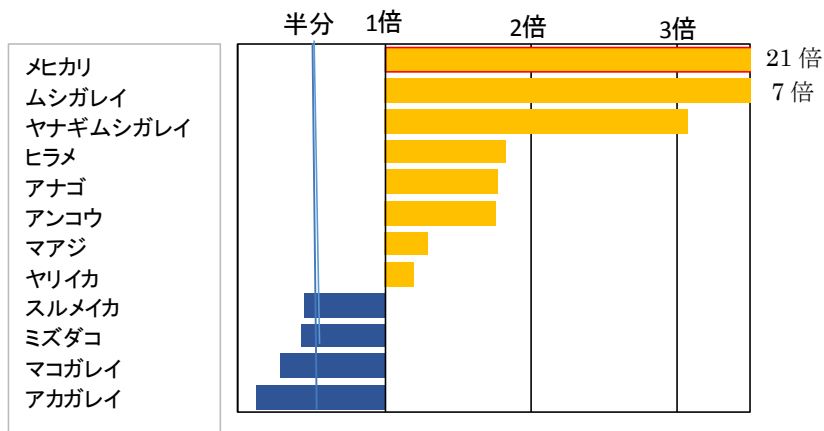


図3 平成28年に漁獲された主要魚種の漁獲量の震災前（H18～22年の平均）との比較

平成28年漁期に多く獲られた魚種の漁獲量を震災前の量と比べてみました（図3）。特に増えたのはメヒカリ（21倍）、ムシガレイ（7倍）で、ヤナギムシガレイも3倍になっています。ヒラメは昨年の半分に減少しているものの、震災前の1.8倍と多く、またヤリイカも1.2倍となっています。これらの魚種が漁獲量全体の水準を支えています。

一方、スルメイカ、ミズダコ、マコガレイ、アカガレイ等は震災前、漁獲量ベスト10に入っていましたが、現在は半分以下になっています。

（水産試験場 定着性資源部）